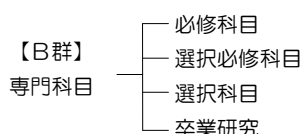


《2014年(平成26年)度入学生用》

## 〔建築学部〕建築学科

School of Architecture  
Department of Architecture



### ■建築学科 カリキュラムの編成

カリキュラムは1・2年次と3・4年次に分かれ、3年次から学科独自のカリキュラムがスタートする。なお、各学科の科目は相互に関連しており、その相違は教育目標の違いといえる。

1, 2年次において、O群の「実践基礎科目」、A群の「総合教育科目」に加え、B群の「専門科目」における専門基礎科目の学習により、建築学の基礎的な諸分野を広く網羅的に学び、技術者として必要とされる基礎的教養科目と、建築技術者に必要とされ、プロフェッショナルとして備えるべき専門的知識の基礎課程を身につけることができる。そのうえで、3, 4年次のB群に設置される専門科目を履修することになる。

3, 4年次の専門科目は建築技術者として必要とされる専門知識であり、かつ建築学科独自の専門科目群であり、応用的な多様なプログラムが細かく設定されている。1, 2年次の教育により、個々の学生が建築の多様性を早い段階で理解することができるようになるため、3年次からの各専門分野における、より高度できめ細かな教育を実現することが可能となる。そして、4年間の勉学の集大成として卒業研究がある。自己学修能力を高め、社会での知識や技術の適用を確実なものとしていく。卒業研究は学生が自己の適性と将来の進路等を踏まえ指導教員と相談の上行う。卒業研究は論文または設計、およびその両方を行うことができる。

### ■3年次科目履修条件、卒業研究着手条件および卒業条件

2年次から3年次になるときには3年次科目履修条件、3年次から4年次になるときには卒業研究着手条件、4年次を終え卒業するときには卒業条件があり、これらを満たさない場合は留年となる。なお、これらの条件は3学科に共通のものとなっている。詳細は履修規定と履修上の注意を参照すること。

### ■建築学科の配属について

建築学科には、3年次進級の際に学科への配属が行なわれ、それ以降は、建築学科に所属して学習することになる。学科配属に関する詳細については、1, 2年次に開催する説明会のほか掲示等で周知する。本人の希望と成績により配属を決定する。なお、4年次の卒業研究では、実社会における専門分野の横断的な繋がりを踏まえた深化が生じることを踏まえ、所属する学科に限ることなく研究室を選択することができる。

2014年(平成26年)度入学生用 建築学科 履修フロー

カテゴリー 授業のねらい	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
a)導入科目	建築ロジカルライティングⅠ	建築ロジカルライティングⅡ						
b)総合文化科目	人文・社会科学の基礎A(2) 素描と表現(2)	人文・社会科学の基礎B(2) イメージと表現(2)	(第1類)人間の探求(2)×12科目, (第2類)社会の科学(2)×15科目, (第3類)世界と日本(2)×12科目, (第4類)芸術と表現(2)×10科目, (第5類)科学と文明(2)×11科目					
c)自然科学系科目	基礎数学(2) 情報処理A(2)	物理学概論A(2) 化学概論(2)	自然科学系選択科目(2)×8科目					
d)外国語科目	Introduction to Communicative English I (1) Basic Reading Skills I (1)	Introduction to Communicative English II (1) Basic Reading Skills II (1)	Basic Writing Skills I (1)	Basic Writing Skills II (1)	コミュニケーション科目(1)×10科目, 応用英語(2)×19科目, 第2外国語(2)×9科目			
e)保健体育科目	身体・運動科学演習(2)		生涯スポーツA(1) 生涯スポーツB(1)		生涯スポーツC(1)			
f)自由研究科目	自由研究科目(2)×15科目 + (4)×4科目							
g)キャリア支援科目	キャリアデザイン(2)							
【B群】専門基礎科目	建築入門 建築デザイン学概論	まちづくり学概論 建築学概論					建築総合演習Ⅱ(3)	
	基礎設計・図法(2)	建築設計Ⅰ(2) 建築計画Ⅰ(2)	建築設計Ⅱ(2) 建築計画Ⅱ(2)	建築設計Ⅲ(2) 建築計画Ⅲ(2)	建築総合演習Ⅰ(3) 建築情報処理Ⅰ(2) 建築学特別講義A(2)	建築情報処理Ⅱ(2) 建築学特別講義B(2)	卒業研究(8)	
	都市デザイン(2)	地区まちづくり論(2)	都市計画(2)	ランドスケープデザイン(2)	学外研修(2) 建築セミナー(2)			
	建築の構造Ⅰ(2)	構造力学Ⅰ(2) 構造力学演習(1)	構造力学Ⅱ(2)	建築の構造Ⅱ(2)	医療施設設計画(2) 建築プロセス論(2)	地域施設設計画(2)		
		建築材料(2)	建築施工(2)	建築構法(2)	鉄筋コンクリート構造(2) 木質構造(2)	鋼構造(2) 構造解析(2) 構造設計(2)	地盤基礎工学(2) 構造デザイン(2)	
		環境工学Ⅰ(2)	環境工学Ⅱ(2)	設備計画(2) 建築法規(2)	構法計画(2) 構造材料施工(2) 内外装材料施工(2)	建築プロジェクトマネジメント(2) ファシリティマネジメント(2) 建築生産(2)	建築経済(2) 構法設計(2)	
			構造基礎実験(2) 材料実験(2) 環境基礎実験(2) 測量実習(2)		建築設備工学(2) 空調調和設備(2)	給排水衛生設備(2) 建築環境エネルギーシステム(2) 環境・設備設計(2)	環境実験(2) 電気情報システム(2)	
	社会貢献学入門(2)	減災学入門(2)	減災学入門(2)	建築技術者の倫理(2)	学科の履修条件, 卒業着手条件, 卒業条件に従い, 上記以外の科目を履修することができる			

必修科目      学年指定選択必修科目      選択必修科目      選択科目

## 〔建築学部〕

## 建築学科 専門基礎科目・専門科目

2014年(平成26年)度入学生用

## 専門基礎科目

○印＝必修科目，△印＝選択必修科目，無印＝選択科目

授 業 科 目		標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				備 考		
区 分	種 別	科目名	単位数	1 年	2 年		3 年	4 年
				前 後	前 後		前 後	前 後
【B群】 専 門 科 目  a) 専門基礎科目		建築入門	2	1				
		まちづくり学概論	2		1			
		建築学概論	2		1			
		建築デザイン学概論	2	1				
		○ 基礎設計・図法	2	2				
		○ 建築設計Ⅰ	2		2			
		○ 建築設計Ⅱ	2			2		
		○ 建築設計Ⅲ	2				2	
		○ 建築計画Ⅰ	2		1			
		○ 建築計画Ⅱ	2			1		
		○ 建築計画Ⅲ	2				1	
		○ 日本建築史	2			1		
		○ 西洋建築史	2				1	
		都市デザイン	2	1				
		地区まちづくり論	2		1			
		○ 都市計画	2			1		
		○ ランドスケープデザイン	2				1	
		○ 建築の構造Ⅰ	2	1				
		○ 建築の構造Ⅱ	2				1	
		○ 構造力学Ⅰ	2		1			
		○ 構造力学Ⅱ	2			1		
		○ 構造力学演習	1		1			
		○ 建築材料	2		1			
		○ 建築施工	2			1		
		○ 建築構法	2				1	
		○ 環境工学Ⅰ	2		1			
		○ 環境工学Ⅱ	2			1		
		○ 設備計画	2				1	
		○ 建築法規	2					1
	△ 構造基礎実験	2			2			
	△ 材料実験	2			2			
	△ 環境基礎実験	2			2			
	△ 測量実習	2			2			
	○ 建築技術者の倫理	2				1		
	○ 社会貢献学入門	2	1					
	○ 減災学入門	2	☆	または	☆			
	小 計	71						

これらのうち、いずれか1科目  
2単位の修得を必要とする。

注1)

注1) 夏期集中

専門科目

○印＝必修科目，無印＝選択科目

授 業 科 目			標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)				備 考	
区 分	種 別	科目名	単位数	1 年		2 年		
				前	後	前		後
【B 群】 専 門 科 目 b) 専門科目	○	建築演習	2			2		
		建築総合演習Ⅰ	3				3	
		建築総合演習Ⅱ	3					3
		建築情報処理Ⅰ	2			2		
		建築情報処理Ⅱ	2			2		
		建築学特別講義A	2			1		
		建築学特別講義B	2				1	
		建築セミナー	2				2	
		学外研修	2				☆	注1)
	○	卒業研究	8					☆
		医療施設計画	2			1		
		地域施設計画	2				1	
		建築プロセス論	2			1		
		鉄筋コンクリート構造	2			1		
		木質構造	2			1		
		鋼構造	2				1	
		構造解析	2				1	
		構造設計	2				1	
		地盤・基礎工学	2					1
		構造デザイン	2					1
		構法計画	2			1		
		構造材料施工	2			1		
		内外装材料施工	2			1		
		建築プロジェクトマネジメント	2				1	
		ファシリティマネジメント	2				1	
		生産設計	2				1	
		建築経済	2					1
		構法設計	2					2
	建築設備工学	2			1			
	空気調和設備	2			1			
	給排水衛生設備	2				1		
	建築環境エネルギーシステム	2				1		
	環境・設備設計	2				2		
	環境実験	2					2	
	電気・情報システム	2					1	
	小 計	78						
	※	職業指導	4				1 1	注2)

B 群 合 計	153
---------	-----

標準履修学年，学期は変更することがある。また，年度により授業科目を開講しないことがある。

注1) 夏期集中

注2) ※印の科目は教員免許状取得に必要な科目であって，『卒業に必要な単位数』に算入することはできない。



◇建築学科の履修規定と履修上の注意〔第1部 2014年(平成26年)度入学生用〕

I 履修規定（建築学部全学科共通）

【3年次科目履修条件，卒業研究着手条件及び卒業条件】

群	科目区分	3年次科目履修条件(注1)	卒業研究着手に必要な単位数(注2)	卒業に必要な単位数(注3)
[O群] 実践基礎科目	a) 導入科目			
[A群] 総合教育科目	b) 総合文化科目 (注4)		指定選択必修4単位	合計で24単位 (含む，a)総合文化科目，b)自然科学系科目各4単位)
	c)自然科学系科目 (注4)		指定選択必修4単位	
	d)外国語科目		必修6単位	8単位(含む必修6単位)
	e)保健体育科目		必修2単位	2単位 (含む必修2単位，上限5単位)
	f)自由研究科目			
	g)キャリア科目			
[B群] 専門科目	必修科目	必修科目・選択必修科目合わせて36単位	1,2年次配当のすべての必修科目 40単位	42単位
	選択必修科目		2単位	2単位(注5)
	選択科目			30単位(注6)
	卒業研究			8単位
合計		62単位	100単位	124単位

(注1) 3年次及び4年次の科目を履修するには，2カ年以上在学し，本条件を充足しなければならない(転部，転学部，転科および編入学生は除く)。なお，3年前期で本条件を充足した場合は，3年次後期に開講される科目の履修が制限されるものがある。

(注2) 本条件の合計単位数100単位と，総合教育科目，専門科目の必要最小単位数の合計58単位との差は42単位である。この42単位の履修は，各自で卒業に必要な単位数や将来の専門分野などを考慮して計画的に履修すること。

(注3) 本条件の合計単位数124単位と，総合教育科目，専門科目の必要最小単位数の合計116単位との差は8単位である。この8単位は，実践基礎科目，総合教育科目，専門科目，他学科科目から自由に修得できる。

(注4) 総合文化科目，自然科学系科目に含まれる1年次指定選択必修科目(下表)は，大学4年間の学習の基盤となる科目なので，8科目のなかから，1年次の前期・後期とも最低2科目ずつ以上履修しなければならない。なお，1年次指定選択必修科目の単位も，卒業研究着手および卒業に必要となるA群a)およびb)の単位数に含めることができる。

(注5) 専門科目の選択必修科目(構造基礎実験，材料実験，環境基礎実験，測量演習)は2科目以上履修できない。

(注6) 本条件には，建築学部他学科3，4年次に配当されている選択科目14単位を含めることができる。

◆1年次指定選択必修科目

	1年生前期	1年生後期
総合文化科目	人文・社会科学の基礎A	人文・社会科学の基礎B
	素描と表現	イメージと表現
自然科学系科目	基礎数学	物理学概論A
	情報処理A	化学概論

## II カリキュラムの経過措置と再入学生、編入学生に対する取扱い

- (イ) 学生には、入学年度のカリキュラムが適用される。
- (ロ) 入学年度のカリキュラムにない専門科目を修得した場合は、「カリキュラムの変遷表」(『履修の手引き』参照)によって認定される。
- (ハ) 再入学生、編入学生には、再入学、編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。
- (ニ) 編入学生に対する特別措置として、第2部建築学科の開講科目のうち、予め許可された科目については、その科目を履修することで、建築学部の科目履修に代えることができる。詳細は、別途定める。

## III 履修上の注意

- (イ) 3年次に進級する際、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかに所属が決定するが、所属において単位を修得した科目と同一名称の本学他学科開設科目がある場合、それを重ねて履修することはできない。また、名称の異なる科目であっても、別途定める「建築学部専門科目対応表」で、重ねて履修することのできない他学科開設科目を指定してあるので注意すること。
- (ロ) 履修上の注意については、必要に応じて建築学部掲示板にて指示する。

## ◇建築学科の履修規定と履修上の注意〔第1部 2014年(平成26年)度入学生用〕

## I 履修規定（建築学部全学科共通）

【3年次科目履修条件、卒業研究着手条件及び卒業条件】

群	科目区分	3年次科目履修条件 (注1)	卒業研究着手に必要な単位数 (注2)	卒業に必要な単位数(注3)	
[O群] 実践基礎科目	a) 導入科目			合計で24単位 (含む、b)総合文化科目、c) 自然科学系科目各4単位)	
[A群] 総合教育科目	b) 総合文化科目 (注4)		指定選択必修 4 単位		
	c) 自然科学系科目 (注4)		指定選択必修 4 単位		
	d) 外国語科目		必修 6 単位		8 単位 (含む必修 6 単位)
	e) 保健体育科目		必修 2 単位		2 単位 (含む必修 2 単位, 上限 5 単位)
	f) 自由研究科目 g) キャリア科目				
[B群] 専門科目	必修科目	必修科目・選 択必修科目 合わせて 36 単位	1, 2 年次配当の すべての必修科 目 40 単位		42 単位
	選択必修科目		2 単位	2 単位 (注5)	
	選択科目			30 単位 (注6)	
	卒業研究			8 単位	
合計		62 単位	100 単位	124 単位	

(注1) 3年次及び4年次の科目を履修するには、2カ年以上在学し、本条件を充足しなければならない(転部、転学部、転科および編入学生は除く)。なお、3年前期で本条件を充足した場合は、3年次後期に開講される科目の履修が制限されるものがある。

(注2) 本条件の合計単位数 100 単位と、総合教育科目、専門科目の必要最小単位数の合計 58 単位との差は 42 単位である。この 42 単位の履修は、各自で卒業に必要な単位数や将来の専門分野などを考慮して計画的に履修すること。

(注3) 本条件の合計単位数 124 単位と、実践基礎科目、総合教育科目、専門科目の必要最小単位数の合計 116 単位との差は 8 単位である。この 8 単位は、実践基礎科目、総合教育科目、専門科目、他学科科目から自由に修得できる。

(注4) 総合文化科目、自然科学系科目に含まれる1年次指定選択必修科目(下表)は、大学4年間の学習の基盤となる科目なので、8科目のなかから、1年次の前期・後期とも最低2科目ずつ以上履修しなければならない。なお、1年次指定選択必修科目の単位も、卒業研究着手および卒業に必要なとなるA群b)およびc)の単位数に含めることができる。

(注5) 専門科目の選択必修科目(構造基礎実験、材料実験、環境基礎実験、測量演習)は2科目以上履修できない。

(注6) 本条件には、建築学部の他学科3、4年次に配当されている選択科目14単位を含めることができる。

## ◆1年次指定選択必修科目

	1年生前期	1年生後期
総合文化科目	人文・社会科学の基礎A	人文・社会科学の基礎B
	素描と表現	イメージと表現
自然科学系科目	基礎数学	物理学概論A
	情報処理A	化学概論



## II カリキュラムの経過措置と再入学生、編入学生に対する取扱い

- (イ) 学生には、入学年度のカリキュラムが適用される。
- (ロ) 入学年度のカリキュラムにない専門科目を修得した場合は、「カリキュラムの変遷表」(『履修の手引き』参照)によって認定される。
- (ハ) 再入学生、編入学生には、再入学、編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。
- (ニ) 編入学生に対する特別措置として、第2部建築学科の開講科目のうち、予め許可された科目については、その科目を履修することで、建築学部の科目履修に代えることができる。詳細は、別途定める。

## III 履修上の注意

- (イ) 3年次に進級する際、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかに所属が決定するが、所属において単位を修得した科目と同一名称の本学他学科開設科目がある場合、それを重ねて履修することはできない。また、名称の異なる科目であっても、別途定める「建築学部専門科目対応表」で、重ねて履修することのできない他学科開設科目を指定してあるので注意すること。
- (ロ) 履修上の注意については、必要に応じて建築学部掲示板にて指示する。